

# 第6回 台東区子ども歴史・文化検定 小学生問題

## 解答と解説

解説文の最後に、参考として『台東区子ども歴史・文化テキスト（改訂版）』のページ数を掲載しています。

平成27年度 台東区教育委員会

問1

正解 ウ

台東区の西側にある上野の台地近辺には、人々の暮らした跡を見ることができます。貝塚をはじめとする遺跡では、家の跡や人々が食べた貝、漁に使った道具などが見つかっています。(9頁)

---

問2

正解 エ

弥生時代に入ると農業が普及し、米を食べる文化が広まりました。穀物を貯蔵することが可能になったため、貧富の差が生まれ、争いが多くなりました。台東区では、弥生時代の終わりころの遺跡が見つかっています。(9頁)

寛永寺は、1625(寛永2)年、上野の山に天海僧正と2代将軍秀忠、3代将軍家光とが協力して創建されました。(15、16頁)

---

問3

正解 ア

榎前浜成・竹成兄弟の網にかかった観音像を土師中知がまつたことから、浅草寺が始まったといわれています。アの天海は寛永寺を創建した人です。(12、13頁)

---

問4

正解 イ

富くじとは、富札を売り、当たった者にほうびを給するくじです。台東区内では、江戸時代、享保になると、谷中の感応寺(天王寺)が公認されました。(19頁)

問5

正解 イ

慶長<sup>けいちょう</sup>10年の江戸<sup>えど</sup>の人口は15万人です。(14頁)

---

問6

正解 ア

1923年に起こったのは関東大震災<sup>だいしんさい</sup>です。東京は、9月1日、午前11時58分、マグニチュード7.9といわれている激しい地震<sup>はげじしん</sup>に襲<sup>おそ</sup>われました。ちょうど昼食時で使用<sup>し</sup>中のかまどやガスコンロの火が燃<sup>も</sup>え移<sup>うつ</sup>って火事<sup>ひがい</sup>が起こり、被害<sup>ひがい</sup>を大きくしました。(30頁)

---

問7

正解 イ

国民学校初等科の3年生から6年生の児童<sup>こなん</sup>らは、学童疎開<sup>そかい</sup>の対象<sup>たいしょう</sup>になりました。下谷区<sup>したや</sup>の学校は福島県<sup>ふくしまけん</sup>、浅草区<sup>あさくさ</sup>の学校は宮城県<sup>みやぎけん</sup>に疎開<sup>そかい</sup>しました。会津三里町<sup>あいづみさと</sup>は当時の疎開先<sup>そかい</sup>の縁<sup>えん</sup>で友好都市<sup>ゆうこうとし</sup>になりました。(31～33頁)

---

問8

正解 エ

アメ横<sup>あめぎわ</sup>は終戦直後の混乱<sup>こんらん</sup>した時代に生まれた商店街<sup>しょうてんがい</sup>です。他の3つの場所<sup>ばしょ</sup>は江戸時代<sup>えどじだい</sup>にすでに商店<sup>しょうてん</sup>が立ち並び<sup>なら</sup>にぎわっていました。(33頁)

問 9

正解 ウ

江戸時代えどじだいの中期には、塩しほ・砂糖さとう・しょうゆ・かつお節といった調味料が使われるようになり、食文化が豊かゆたになりました。江戸時代は四足の動物は食べませんでしたよつあしでしたが、明治時代になり、西洋文化の影響えいさやうを受け食生活も劇的に変わり、牛肉をみそやしょうゆで煮込む牛なべが流行しました。(37、42 頁)

---

問 10

正解 ウ

レンガが建築建材となるのは、明治時代以後のことです。しかし関東大震災での凌雲閣だいしんさい りやううんかくの倒壊とうかいに象徴しょうちやうされるように地震に弱いことが明らかになったため、小規模な建築以外では使われなくなりました。アの代表例が下谷したや（上野）広小路です。イで代表されるのがいろは四十七（のちに四十八）組の町火消まちびけしです。エは家を破壊することにより延焼を防ぎました。当時は防火用水は常備ぼうかようすいされていましたが、消火できるほどではありませんでした。(50、51 頁)

---

問 11

正解 エ

江戸時代には衣服や紙製品などさまざまなものが再利用されました。ペットボトルの材料は合成樹脂ごうせいじゆしで、江戸時代にはなかったものです。(47 頁)

---

問 12

正解 エ

明治時代になると、牛肉を食べたり、牛乳ぎゅうにゅうやコーヒーを飲んだりするようになりました。他のものは江戸時代に食べられ始めたものです。(42 頁)

問 1 3

正解 ウ

アは大正から昭和初めに流行した、西洋文化の最先端の流行や風俗を取り入れた女性のこ  
とです。イは明治初期に断髪令によって鬘を落とした人が取り入れた髪型のことです。「ざ  
んざり頭をたたいてみれば文明開化の音がする」という言葉が流行しました。エは給料をも  
らって生活している人のことで、明治、大正時代には中流階級の人々がほとんどでした。(41、  
43、45 頁)

---

問 1 4

正解 ア

エノケン一座の舞台には、ジャズやダンスがあり、スピーディーでナンセンスなギャグが  
いっぱい、昭和初期の浅草の人気を独占するかのようないきおいでした。浅草を去って有楽  
町に活動拠点を移してから、舞台に映画に活躍を続け、その人気は全国に及びました。(29  
頁)

---

問 1 5

正解 ア

近代に入ると、工業技術や機械の導入などによって、手仕事の職人は減っていきました。  
(60 頁)

---

問 1 6

正解 ア

襖を開け閉めするときにかける部分を引手といいます。堀口さんは、全国でも数少  
ない引手職人の一人です。(61、62 頁)

問 1 7

正解 イ

路面に線路を敷き、その上を馬車が走る鉄道馬車は、1882（明治 15）年に運行が始まり、乗合馬車より乗り心地がよく人気を集め、約 20 年間東京の街中を走り続けました。（64 頁）

---

問 1 8

正解 ウ

鎌倉街道は、鎌倉から放射状にいくつものルートがありました。その中で下道は台東区内を抜けて東北地方に向かっていたと考えられています。（67 頁）

---

問 1 9

正解 ウ

鳥越川のうち、現在の江戸通りにかかっていた須賀橋あたりから河口までの水路は、須賀堀という名でしたが、釣りをした帰りに、「おいてけ」と声をかけられるという伝説にちなみ、「おいてけ堀」とも呼ばれていました。（72 頁）

---

問 2 0

正解 ア

伝説では、むかし、浅茅ヶ原に一軒家があり、その家に泊めた旅人を殺しては、物を奪って暮らしている老婆がいました。しかしある夜、老婆の娘が旅人の身代わりになって死んでしまいます。老婆はそれを悲しみ、また自分がやってきたことを後悔して、池に入り、死んでしまいました。そのため土地の人々はこの池を姥ヶ池と呼ぶようになった、といひます。（76、77 頁）

問 2 1

正解 イ

舟ふねを使うと荷物をたくさん運ぶことができました。江戸時代えどじだいには堀割ほりわり（用水路はいすいろや排水路）や土手ていぼう（堤防）などがつくられ、台東区内には川や水路が網あみの目めのように流れていました。（69 頁）

---

問 2 2

正解 エ

鹿鳴館ろくめいかんは 1883 (明治 16) 年に日比谷公園ひびやこうえん近くの旧薩摩藩屋敷跡きゅうさつまはんやしきあとに建てられた社交場です。（見世物小屋みせものごや、浅草富士ふじ、凌雲閣りょううんかくの説明は 84、85 頁参照）

---

問 2 3

正解 ウ

七福神は、恵比寿えびす・大黒天びしゃもんでん・毘沙門天べんざいてん・弁財天ふくろくじゆ・福祿寿ほてい・布袋じゆろうじん・寿老人はんじょうです。商売繁盛はんじょうを願う福の神しんこう信仰はってんから発展し、これらを巡めぐって一年の福德ふくとくを願う信仰があります。（88 頁）  
帝釈天たいしゃくてんは、映画『男はつらいよ』で舞台えいがとなった東京都葛飾区ふたいの柴又帝釈天かつしかくが有名です。しばまた

---

問 2 4

正解 ア

こんこん靴市くつは、玉姫稻荷神社たまひめいなりの氏子うじこである靴の関連業者が、商売繁盛はんじょうや地域ちいきの産業の発展はってんを願って開く市です。境内けいだいで靴を安く販売はんばいするほか、さまざまな催もよおしも行われます。（92 頁）

鷲神社では 11 月に「酉の市（酉の日）」、上野東照宮では 1～2 月に「冬ぼたん」、4～5 月に「春ぼたん」、五條天神社では 1 月 24 日～25 日に「うそかえ神事」等が催されます。（89、93、96 頁）

問25

正解 ウ

羽子板市は12月17日～19日に行われ、江戸時代、年末に浅草に立った市は歳の市と呼ばれ、江戸でもっとも規模が大きく、正月用品などが売られていました。その名残をもつものが羽子板市です。(97頁)

隅田川花火大会は、江戸時代の両国の川開きに由来をもつ花火大会で、7月の最終土曜日に行われます。(94頁)

酉の市は、鷺神社で11月中に2～3回ある酉の日に開かれる市で、一般にお酉さまといいます。(96頁)

花祭りは、4月8日ごろに、お釈迦さまの誕生日を祝い、区内の寺院各所ではお釈迦さまの誕生仏を安置した花御堂を設け、甘茶の接待などが行われます。(91頁)

---

問26

正解 ウ

明治時代に盛んであった朝顔市でしたが、1913(大正2)年に途絶えました。その後、1948(昭和23)年に復興して今日にいたっています。(94頁)

---

問27

正解 ウ

レガッタとは、英語で、ボートやヨットの競技のことです。(91頁)

---

問28

正解 ア

とんど焼きは、正月のしめ飾りなどを焼く行事で、鳥越神社のものが有名です。竹を持った子どもたちが「とんどとんど」と唱えつつ、地面を叩きながら行います。(88頁)



問 2 9

正解 イ

まないた開きは、毎年1月12日に、報恩寺を開いた僧侶・性信の画像の前で行われ、1233（貞永2）年に始まったといわれています。（89頁）

---

問 3 0

正解 イ

「江戸流しびな」では、ケガレを移した紙でなく、願い事を書いた流しびなを流します。（90頁）

---

問 3 1

正解 ウ

大きな赤い鳥居で知られる下谷神社は、730（天平2）年に上野の山に創建されたといわれています。その後寛永寺を建立するため、上野山下に移り、1680（延宝8）年には現稲荷町にあった広徳寺門前へ、さらに1928（昭和3）年に現在の場所に移りました。（110頁）

---

問 3 2

正解 エ

江戸時代には、かつば橋道具街通りを新堀川が流れていました。大雨のたびに川は氾濫したことから、合羽屋喜八（通称 合羽川太郎）が私財を投げ出して新堀川を広げる工事を行いました。（101頁）

問33

正解 エ

江川太郎左衛門英竜は江戸時代に活躍した幕臣で、伊豆の葦山の代官でした。幕末の洋学の先駆者の一人で、お台場で大砲をつくるなどその能力をかわれ、ペリーが来航したときには海防の担当者として活躍しました。(107頁)

---

問34

正解 イ

浅草の駒形堂は2003(平成15)年(103頁)、浅草神社の社殿は1649(慶安2)年(112頁)、下谷神社の社殿は1934(昭和9)年(110頁)、小野照崎神社の社殿は1866(慶応2)年(110頁)にそれぞれ建てられました。浅草神社の社殿は、権現づくりの代表的な建物で、重要文化財になっています。(112頁)

---

問35

正解 イ

待乳山聖天は、正式には待乳山本龍院といい、大根と巾着(砂金袋)がシンボルとなっています。大根は消化がよく栄養価が高いところから健康増進・一家和合のもと、巾着は金銀財宝で商売繁盛を表しています。(100頁)

---

問36

正解 イ

新堀川に大きな1匹の鯉が現れたとき、大川(隅田川)の主だという人もいましたが、元気な若者たちは川に飛び込み、つかまえて食べようとしました。そこへ1人の老人が来て、その大鯉をもらいうけ龍宝寺の大池に放しましたが、すぐに死んでしまいました。住職が鯉の墓をつくろうとすると、若者たちは無理やり持ち帰りみんなで食べてしまいました。すると、鯉を食べた人は苦しみ出し、次々に亡くなったため、人々は鯉のたたりだと住職に頼んで供養してもらい、鯉塚を建てました。(105頁)

問37

正解 ア

イの目黄不動は、5つの色の目をした五色不動の一つで、上野の寛永寺を建てたことで知られている天海が3代将軍家光とはかって、江戸にあった有名な不動を指定したのが始まりとされ、台東区内には永久寺にあります。

---

問38

正解 ウ

江戸時代は水運が盛んであり、隅田川は移動の主な手段でした。その一方で街道の整備も進み、五街道の一つである奥州街道は駒形堂の西側を通っていました。駒形堂付近は水陸交通の要所でもあったといえます。(103頁)

---

問39

正解 ア

玉林寺が建てられたのは1591(天正9)年といわれ、豊臣秀吉が活躍した安土桃山時代ですが、シイの木はそれよりも前からあったとお寺に伝えられています。シイの木の高さは9.5m、幹の周囲は5.6mで、枝を大きく張った見事な木です(非公開)。(102頁)

---

問40

正解 エ

渾天儀は天体の位置の観測に用いられ、小型化したものは天体を説明する模型としても使用されました。地球儀の天体版ともいえます。(114頁)

#### 問4 1

##### 正解 エ

江戸時代の日本には、中国伝来の漢方医・日本独自の和方医がいました。江戸時代後期になると西洋医学を**実践する蘭方医**が誕生しましたが、漢方医の**圧力**で**蘭方禁止令**が出されました。(119 頁)

---

#### 問4 2

##### 正解 ア

瀧廉太郎は、明治時代を代表する作曲家です。春の隅田川の情景を歌った「花」も作曲しています。旧音楽学校**奏楽堂**に**銅像**（朝倉文夫作）があります。(131 頁)

山田耕筰は、東京生まれの明治～昭和時代にかけて活躍した指揮者で、日本初の管弦楽団をつくるなどして西洋音楽を広めました。代表作に童謡「赤とんぼ」「まちぼうけ」などがあり、区内の「黒門小学校第一校歌」も耕筰の作品です。(132 頁)

岡倉天心は、横浜生まれの美術史家で、日本美術の復興運動に加わり、東京美術学校の開設に尽くしました。谷中の旧居跡は、区立岡倉天心記念公園（都旧跡）として保存されています。(127 頁)

朝倉文夫は、大分県生まれの近代日本の代表的な彫塑家で、1907（明治 40）年に東京美術学校を卒業した後、谷中に住まいとアトリエ（現在の朝倉彫塑館）を建て、1964（昭和 39）年に亡くなるまでの 57 年を過ごし、多くの学生を指導しました。(131 頁)

問 4 3

正解 エ

池波正太郎は昭和時代を代表する時代小説の作家です。戦後は、台東区役所に勤務するとともに劇作家を目指しますが、しだいに小説家として活躍するようになり、1960（昭和 35）年『錯乱』で直木賞を受賞しました。（136～137 頁）

幸田露伴は、明治～昭和時代にかけて活躍した小説家です。一時期住んでいた谷中の住居のそばには天王寺の五重塔があり、大工の棟梁をモデルに『五重塔』を書き上げました。（135 頁）

島崎藤村は、木曾馬籠（岐阜県）生まれの詩人で小説家です。1893（明治 26）年から 1 年余り下谷区三ノ輪町（三ノ輪 1 丁目）の長兄宅に、1906（明治 39）年から約 6 年半を浅草区新片町 1 番地（柳橋 1－7）に住みました。（136 頁）

樋口一葉は、明治時代の女流作家で、生活のために小説を書いていましたがまだまだ生活は苦しく、ほかに荒物雑貨と駄菓子を扱う商売を始めました。このときに移り住んだのが下谷龍泉寺町でした。代表作『たけくらべ』は、この地で構想を得て執筆されたものです。（161 頁）

---

問 4 4

正解 イ

ヤマネは日本にしかいない動物で、北海道を除きほぼ全国の森林に住んでいます。他にオオワシ、オジロワシ、タンチョウ、カラスバト、ルリカケス、オオサンショウウオ等の天然記念物が飼育されています。（142 頁）

---

問 4 5

正解 イ

現在の東京地下鉄銀座線は、1927（昭和 2）年、上野～浅草間 2.2 km で営業運転を始めました。アはつくばエクスプレス、ウは都営浅草線、エは東京地下鉄日比谷線の最初に開業した区間です。（151 頁）

問46

正解 エ

こうした売店が上野駅・東京駅に設置されたのは1932(昭和32)年のことです。鉄道弘済会とは鉄道で働く人々のためにつくられた団体で、この売店での利益は事故にあった人やその家族の救済のためにあてられました。(152頁)

---

問47

正解 エ

凌雲閣は通称「十二階」といいます。1890(明治23)年に開業し、10階までが八角形のレンガづくりで、その上は木造でした。日本で最初のつるべ式のエレベーターが設置され、8階まではエレベーターで上れました。ただ、このエレベーターは危険ということで、2年で廃止されました。(153、154頁)

---

問48

正解 ウ

旧吉田屋酒店(上野桜木2-10-6)は、大きく突き出した梁が屋根を支える「出桁造」で、入口には横長の坂戸を上げ下げして開閉する「揚戸」があります。また店内の中央には「帳場」があり、その左側には商品をならべる棚がしつらえてあります。看板建築は関東大震災後に建てられた商店にみられる特徴です。(160頁)

#### 問 4 9

#### 正解 ウ

旧 東京音楽学校奏楽堂（上野公園 8－43）は、1890（明治 23）年に東京音楽学校（東京藝術大学音楽学部）の本館として建てられ、2 階の奏楽堂は我が国で最も古い木造洋式音楽ホールです。当時、学生だった作曲家の瀧廉太郎や山田耕筰たちがピアノを演奏したり、歌曲を歌ったりし、ここから多くの音楽家が育っていったため、奏楽堂は日本の音楽教育の記念碑ともいわれています。ステージには、日本でただ一つの空気式アクション機構（鍵盤の操作を空気圧でパイプに伝える方式）のパイプオルガンがあります。（164 頁）

---

#### 問 5 0

#### 正解 エ

中村不折により 1936（昭和 11）年に根岸の地に開館されました。博物館には、書だけでなく、不折が書道研究のために収集した書道に関する資料、考古出土品など、重要文化財 12 点、重要美術品 5 点を含む約 1 万 6 千点が所蔵されています。博物館は 1995（平成 7）年に台東区に寄贈され、現在は台東区が新築した建物を加え公開しています。（162 頁）